東京都多摩地域里山の変遷100年
～東京都保全地域に注目した研究～

保全地域について

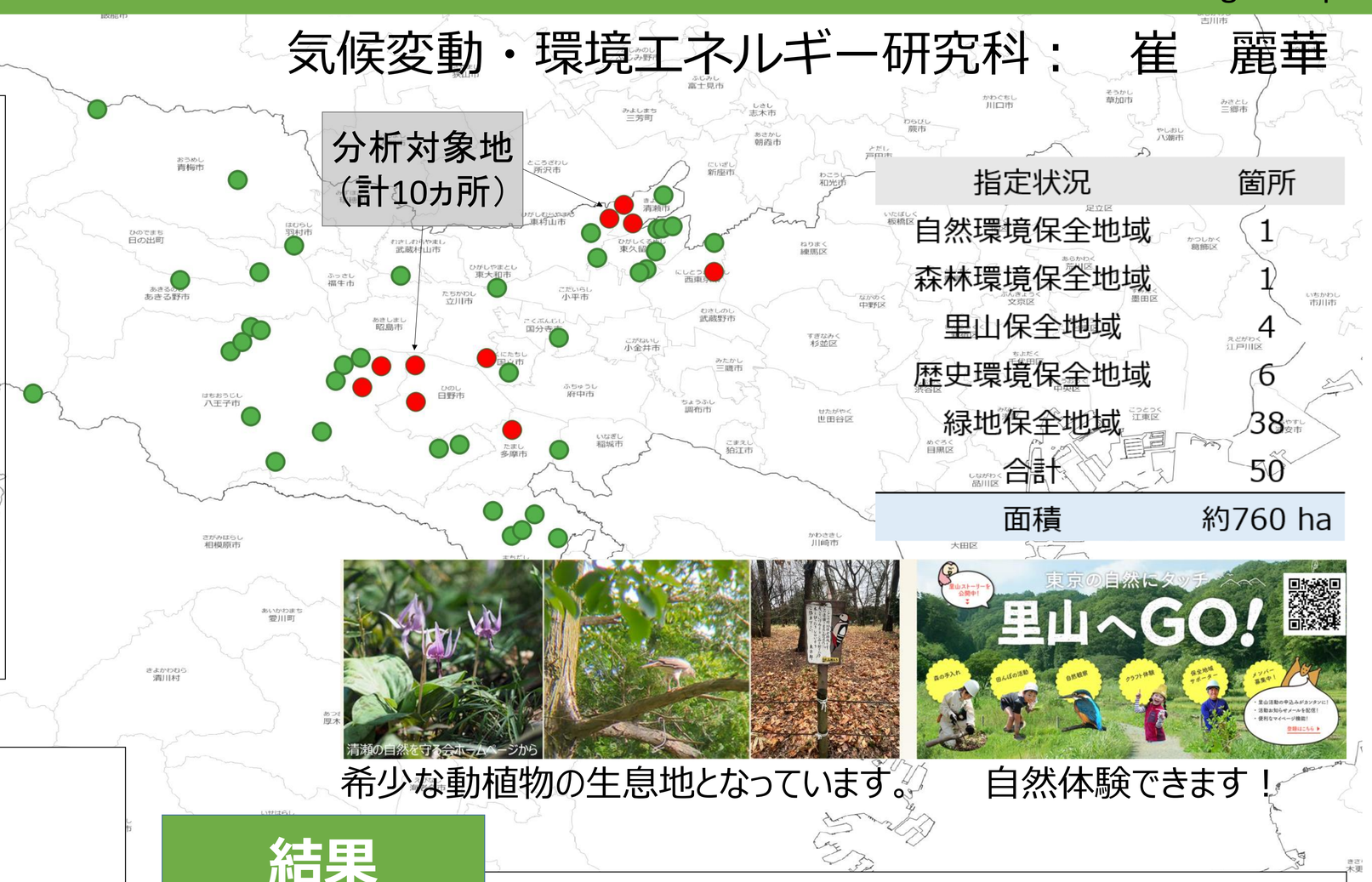
Google Maps

気候変動・環境エネルギー研究科：　崔　麗華

要旨

東京都は1974年以来、かつて里山として利用されていた緑地や樹林地など、**貴重な自然地計50箇所**を保全地域として指定管理している。周辺の都市化が進んだ現在の保全地域はその自然環境や利用形態は大きく変化してきた。本研究では保全地域周辺の土地利用がどう変化してきたかを比較した上で、保全地域の都市緑地としての現代的な価値を考察する。

*本研究での「里山」は、都条例上の「里山保全地域」ではなく、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域を示す。

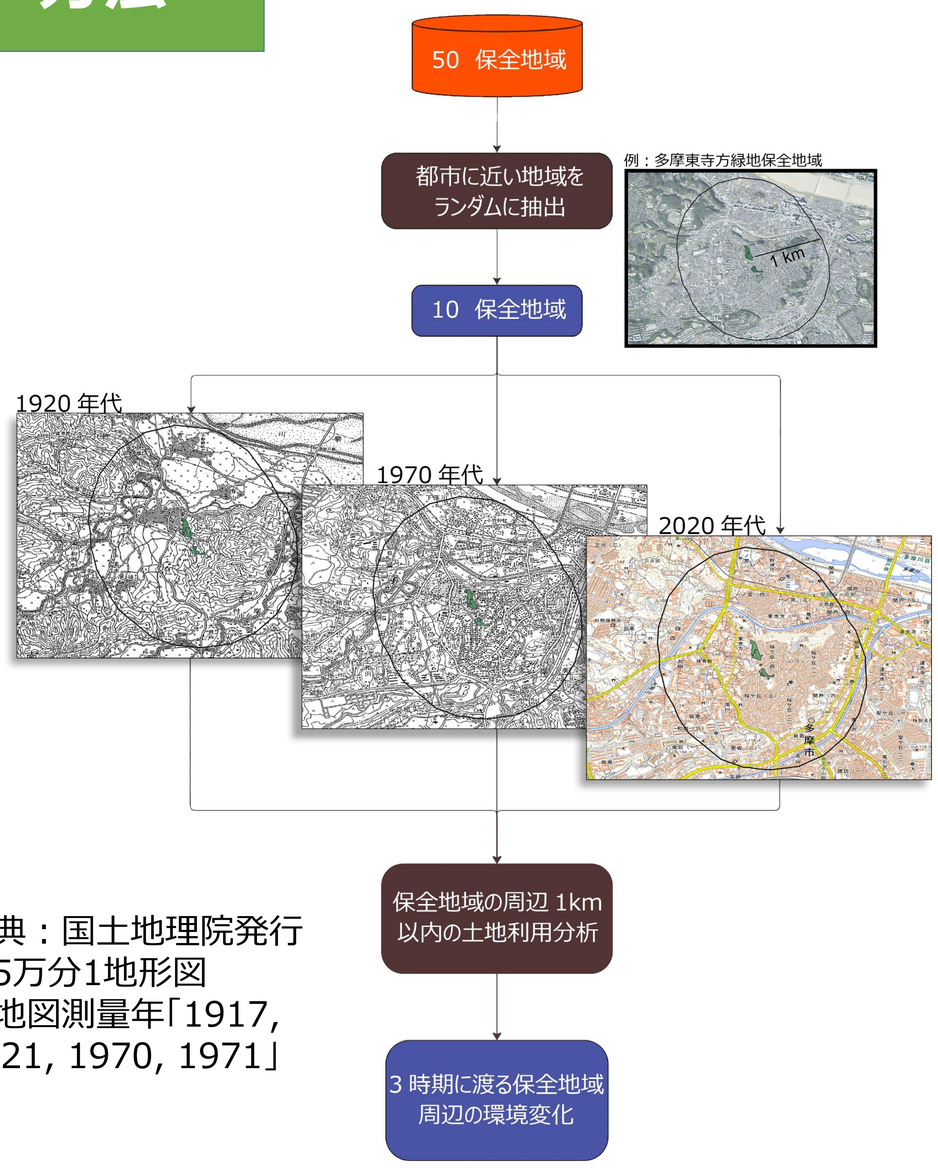


指定状況	箇所
自然環境保全地域	1
森林環境保全地域	1
里山保全地域	4
歴史環境保全地域	6
緑地保全地域	38
合計	50
面積	約760 ha

希少な動植物の生息地となっています。

自然体験できます！

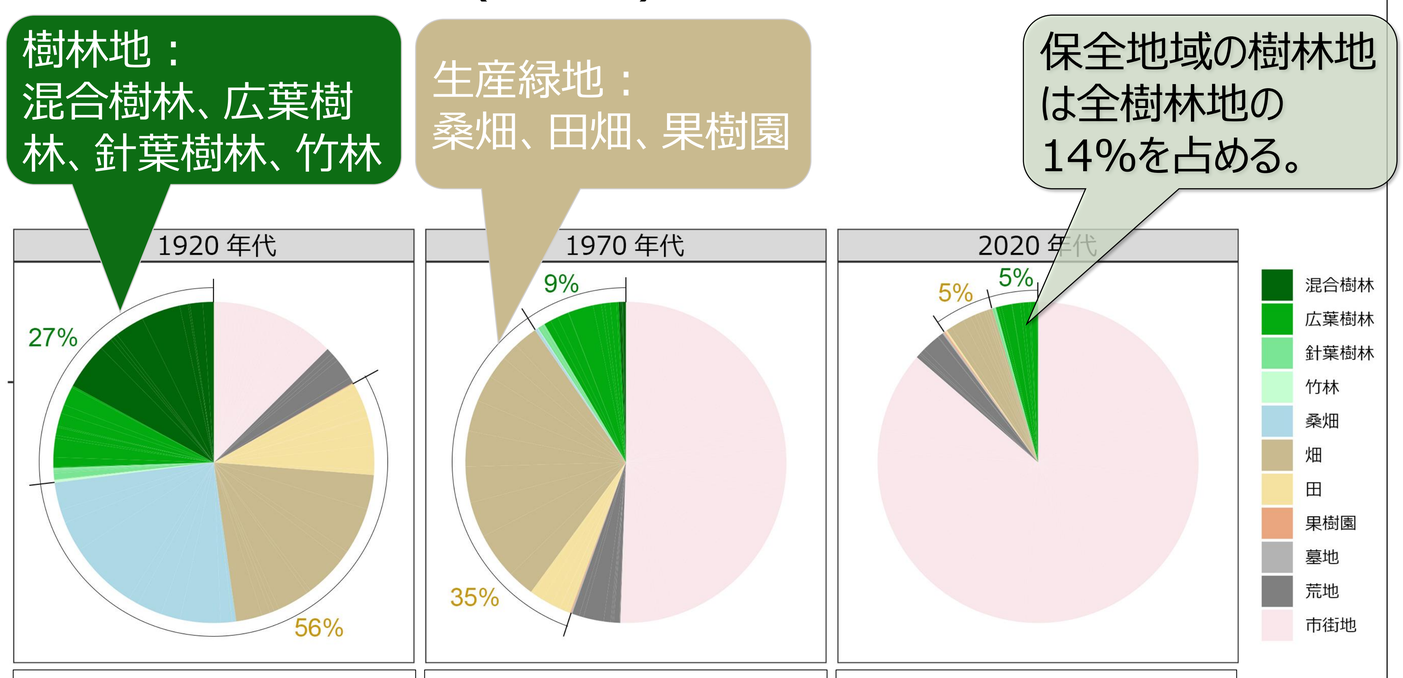
方法



出典：国土地理院発行 2.5万分1地形図 古地図測量年「1917, 1921, 1970, 1971」

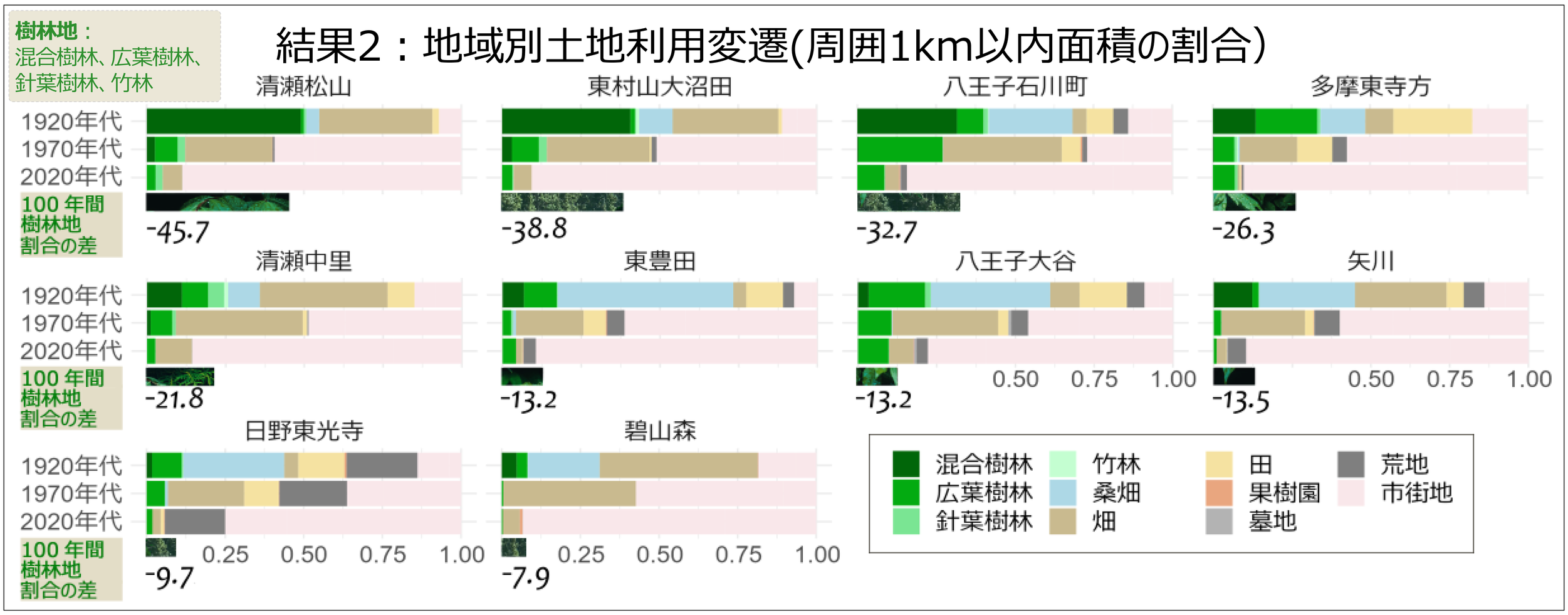
結果

結果１：保全地域(10ヵ所)周囲1km以内の土地利用変遷



1920 年代	1970 年代	2020 年代
樹林地と生産緑地が8割以上。自然・文化が豊かな地域環境であった。	桑畑はほとんど減少、樹林地、水田は大きく減少、畑は増加；都市化が急速に進行。	9割が市街地、僅か5%の樹林地（ほとんど広葉樹林）と生産緑地が残存されている。

結果2：地域別土地利用変遷(周囲1km以内面積の割合)



考察

過去多摩地域には多様な樹林地や農地があり、人々の生活を支える貴重な里山であったことが分かった。現在の多摩地域は自然が大きく縮小したが、残されている樹林地は100年前の里山の風景、豊かな自然・文化、またその環境に依存する多様な生物の生息地として貴重な都市緑地であり、継続的に保全していくことが大切である。